

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
項目番号61 ○日常的な外出支援
項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
項目番号63 ○電話や手紙の支援
項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホーム あいの里

(ユニット名) あいの里 壱

記入者(管理者)
氏名 吉津 大介

評価完了日 平成21年 2月 22日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	あいの里の基本理念である「お客さまに対して誠心誠意のケアにつとめお客さまの満足と信頼を得る」に基づき、日々の生活の支援・サービスに努めている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念を事務所や玄関に掲げ、日々基本理念に基づきケアに努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	敬老会等には地域の方々に周知して参加頂いており、開催するにつれ地域の方々の参加人数も増えている。また、ご家族の方々にも月1回写真やお手紙をお送りし、日々の生活を伝えている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の方、近隣の方々とは顔を合わせるたびに笑顔にて挨拶を行っている。また、最近では小学生が家の帰りにトイレを借りに立ち寄ったりなどもしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会等に参加し、交流を深めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域において自分たちが何が出来るのかを日々模索しており、運営推進会議でも民生員の方に地域の現状を伺い、日々考えている。	○	地域にて認知症についての知識等を深めて頂ける様な介護講座や介護相談を受けれるような場所も今後設けていき、気軽に立ち寄れる空間を作りたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者並びにスタッフ全員で自己評価を作成し、外部評価の内容を運営者・スタッフにて話し合いを行い、より良いサービスができる様に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回定期的に運営推進会議を開催し、日々の出来事を話し合い、委員の方の意見を聞きつつ、日々の生活に取り入れている。また、行事等にも委員の方に参加して頂き、共により良いサービスを考えている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所より相談員の方が月2回来られ、入居者の方の日々思っている不安や不満・希望や要望を聞いて頂き、スタッフへ伝え日頃のケアに反映させている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護について分らない事などあった際には、地域包括支援センターの職員の方や市役所に問い合わせなどをその都度行っている。	○	今後、スタッフばかりではなく、ご家族にも権利擁護の制度を周知して頂ける様な機会を設けたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時、虐待についての知識やこれから職場において絶対行っていけない言葉・態度を説明し虐待防止に努めるとともに研修には随時機会があればスタッフが研修へ参加している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		<p>大人数の異動は行わず、特別な事情がない限り、年1から2人程度にし入居者の方とのなじみの関係を大切にしている。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		<p>入社時には能力にあわせ、先輩スタッフが付き添い、仕事を行い職場内研修を実施している。また、法人外研修に関しても積極的に参加を促している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		<p>管理者・スタッフが持っているネットワークを活かし意見交換などを通して、質の向上に努めている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		<p>会議を始め、機会ある事にスタッフとの話し合いに努め、夏季・冬季に3日ずつリフレッシュ休暇を設けている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		<p>様々な研修会に参加する事で一人一人が向上心を持って働ける様に努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○	これからも喜怒哀楽を共に感じていながら、入居者の方から色々な事を学んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会・通院時、何かのイベントの時などに入居者の方の日頃の様子を話したり、ご家族の方から入居者の方の気持ちを伺ったり、一緒に考え関係を日々築いている。	○	更なる関係を築いていくため、こまめに連絡を取りつつ、またイベント事を沢山企画し、ご家族の方と接する機会を多くとり密な関係を築いていきたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	イベント事にはなるべく参加して頂き、面会時には入居者の方の日々の生活の様子を伝え、また面会時にはなるべくゆっくと過ごして頂けるような環境作りに努めている。	○	本人とご家族の方が今以上により良い関係を築いていけるように支援していきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の自宅や馴染みの美容室、馴染みのスーパー、馴染みの地区など出来る限り、今まで通っていた場所に行くように努めており、そこでの馴染みのご近所さんがいれば、ゆっくと過ごして頂ける配慮を行っている。	○	多くの馴染みの人・場所など月日を重ねる事に途切れていかぬように多くの馴染みの人・場所を大切にしていきたい。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の生活の中で入居者の方同士がつながるようにスタッフが入らない方が関係が築ける時には遠くから見守り、入らなければ上手くいかないような時にはさりげなく間に入り、一緒にテーブルでお茶をしたり、一緒に家事を行ったり、一緒に音楽や歌を歌ったりし関係をつなげる支援を行っている。	○	継続して一人一人の個性を出していきたい。また、接点のない入居者の方同士のつながりを作っていきたい。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設へ行かれた方には面会に伺ったり、年賀状を送るなど行っている。また、手紙などで近況を伝えて下さるご家族の方もいらっしゃる。	○	イベントなどの時に参加の呼びかけなどし、せつかくつながった絆をこれからも大切にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の声を一番に大切にしている。本人の声は1日の生活記録シートに記録し、その本人の声からスタッフ会議にて話し合い、ケアプランの方向性を決め日々の生活に活かせるように努めている。	○	これからも本人の声を一番に大切にしていき、心の声を聞き逃さぬように努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	分からない事があれば、個人ファイルにて常に確認し把握に努めている。また、分からない点があれば常時、本人・ご家族の方に伺い情報を増やしている。	○	本人のペース・リズムが崩れないように支援に努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の申し送りにて話し合い、その日のスタッフリーダーが他のスタッフに申し合わせを行い、入居者の方々の体調などをスタッフが把握していき、個々の1日の計画をその日のスタッフリーダーが中心となり考えながら生活を送っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議を行い、スタッフひとりひとりが意見を出し合い、その後担当者が意見をまとめ次にケアプランを計画作成者と共に意見を反映させ作成している。また、意見の良かったものはどんどん試していき積極的に取り入れている。また、ご家族からの要望を取り入れていくためにご家族の要望書を作り日々の生活に反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しをユニットスタッフ全員にて行っている。また、変化が生じた場合にもご家族の方に連絡をとり対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の生活記録シートに次につながる物や日々の様子や対応した事(上手くいったもの、いかなかったもの)大切な事は細かく、簡単に済むものは効率的にチェック方式にし記録している。また、シートには気付きと本人の声の欄もあり、その部分を大切にしよう心がけている。	○	忙しかったりすると、1日が終わった時に記録シートが空欄だったりする事があるので、1ケア後、記録というようにこまめに記録をしていき、ヒントを逃さないようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	大きなイベント事の際には、必ず招待状をボランティアの方や民生委員の方にお送りして参加を呼びかけている。また、敬老会の際には、地域でダンスクラブなどの方々にも参加を呼びかけ参加して頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人が先の未来に不安を感じないように他のサービス、または行政などに相談をするなど心がけている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	分からない事があった時には、地域包括支援センターへ連絡を行い、相談を仰いでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に通われていた病院については、本人・ご家族の方に意向を伺い、主治医を決定している。また、かかりつけ医がいなかった方に関しては、本人・ご家族との相談の上、協力医をお奨めする場合もある。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	今年より、認知症専門医の方との協力医として契約して頂き、ホームへの往診をして頂いており、その際、相談したり診断や治療方法について詳しく伺い、知識を増やしている。		
45			
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	まめにお見舞いに行き、病院関係者より様子を伺い、早期退院に出来るようにこまめな連絡を心がけている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、ご家族の方や主治医の方とは話し合いを行っているが、まだ不十分な部分が多々あるので、色々と検討していく部分があると感じる。	○	重度化・終末期について、まずホームとしての方針を考え、スタッフ全体が共有していき、その旨をご家族の方や主治医との話し合いも密に行っていき、具体的な方針を確立していきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記同様、まだ不十分な部分があり、改善の余地があると感じる。	○	現在、協力医へ話し、今後の重度化・終末期にむけて対応出来る様に訪問看護ステーションとの契約を進めるため相談している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前には、馴染みの家具を置き、ご家族の方・ケアマネジャーさんから情報を多く取り寄せ引越しダメージの軽減に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に目上の方、そしてサービスを利用されている方と常に意識をし、馴れ馴れしい言葉使いには十二分に気をつけている。また、採用時には絶対使ってはいけない言葉・態度の用紙を渡し、説明し注意を促している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の状態に合わせた対応、言葉・情報の伝え方を考え、本人の希望を十分に傾聴し受け入れるよう努め、また言葉だけではなく希望や訴えを感じるように努めている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの日々の生活ペース、リズムを把握し、業務中心にならぬように日々やらなければならない業務は時間を特に定めず、空いた時間に行うようにしている。常に入居者の方が真ん中にいる生活を心がけている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	美容室は近所にある所を利用している方が多く、美容室まで行けない方はホームへ来て頂き、散髪を行っており、希望に応じ毛染めなども定期的に行っている。馴染みの美容室がある際にはそこまで足を運び、希望に即したカット・パーマをされている。日々の身だしなみについても女性・男性問わずに常に気をつけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>できる事を多く見つけていき、やりたい・やらなくちゃ・自分の役割と感じて頂けるような空間作りを多く作り、準備からではなく、メニュー作りから積極的に入居者の方が自ら取り組める環境を日々考えていきたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>本人へ嗜好を伺っても、「嫌いなものは何にもない」との言葉を聴くことがよくある。そんな方に対しても嗜好を見極め支援していけるように日々の本人の言葉やしぐさ・表情を大切にしていきたい。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	<p>睡眠は人として、とても大切な一部分であり充実した休息が日中の活動の質につながっていくと思うので、どのような支援・環境、空間を作れば、安心してぐっすり休めるのかをスタッフで話し合う事が大切な事であり、話し合う機会をもっと多く作っていきたい。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	一人ひとりの能力を考えた支援を考え、お金の大切さを感じて頂く様、ご家族の方からの月のお小遣いを本人へは日々の家事仕事の報酬としてのお給料としてお渡しする事で、お金に対しての価値観が変わってくるのでそういったお金の重みを感じて頂き、また、一人ひとりのお金への価値観を十二分に尊重し支援している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	日々の買い物・おつかいとしての外出や気晴らしのドライブ、小旅行またはケアプランで計画を決め、目的を持った外出などの支援を行っている。	○	自宅への外泊等の支援は現在も行っているが、他に旅行として温泉1泊などの支援を行ってきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	上記にも述べたように年1回はご家族も踏まえた小旅行を企画し楽しんでいる。また、ケアプランにも計画を盛り込み温泉日帰りツアーなどをその方の誕生日月に計画したり、お彼岸の時などは墓参りなどに出かけている。	○	ご家族とのつながりの場面をもっと多く計画していきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	ご家族の方のご協力の下支援している。また、毎年賀状の声かけなどを行い、つながりや日本の風習やこれまでの習慣を大切に支援を行っている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	面会時間・制限は設けず、自由に出入りの出来る環境・ゆっくりと過ごせる環境を心がけている。また、ホームまでの行き来が一人では難しいご家族の方にはこちらからお向かいに行く旨を伝え、気軽に足が運べるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修へ参加し、学ぶ場を設け知識を高めている。また、日々の生活においても言葉ひとつ・行動ひとつを意識しながら支援を行っている。		身体拘束について知識を高め、スタッフ一人ひとりの意識を高め、ホーム全体の意識を今以上に高めていきたい。また、日々の生活の中においても、もっと自由に生活して頂くよう、「～して下さい」などの言葉の使い方についてもより一層気をつけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>開所当時から鍵をかける事はひとつも考えておらず、スタッフ一人ひとりもこの生活を普通と考えている。現在のスタッフの意識をこれからも継続した鍵をかけなくとも良い開放感のあふれる地域ともつながりのある生活支援を日々心がけていきたい。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	<p>置きっ放しの時もあるので、使い勝手の良い安全性の守れる対応を考えていきたい。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>救命救急法を学ぶ際、実践でも役立てていけるように一人一人が真剣に受講できる場と回数を重ねていきたい。また、緊急時慌てないようにマニュアルを目のつく場所に置き、随時確認できるようにしていきたい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>災害時の地域との協力をもっと高めていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている</p>	<p>一人一人の方のリスクを考え話し合い、その旨ご家族の方には説明するように努めている。ケアプラン作成時にも起こり得るリスクをご家族の方には随時説明を行っている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>日々の様子を記録しておく事で、異変時の気づきを高めている。また、スタッフには「いつもと何か様子がおかしいな」と感じたら、一人で抱え込まず他のスタッフにも伝え情報を共有するよう指導している。また、毎日の血圧・脈拍・体温を把握しておく事で早期の発見に努めている。主治医との連携も行い、異変と感じた際には連絡し指示を仰いでいる。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の変更や用量・用法が変わった際には、必ず申し送りで伝え、1日の生活記録シートにも記入し情報を共有している。また、処方箋も必ずファイルに保管し、分からない事があれば、Drや薬剤師に随時聞くようにしている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>排便の記録を毎日行い、一人一人の状態を把握し、水分を沢山摂ったり、運動・食物繊維・乳製品などをその方にあった方法を考えており、出来ただけ下剤は使用しない取り組みを行っている。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>本人が出来る方には声かけを、出来ない方に対して、出来ない部分を見守りなり、声かけや介助等を行い支援している。また、口腔内に違和感がある時には早めの歯科受診を行っている。また、訪問歯科を活用されている方もいる。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分はなるべく多く摂って頂けるように声かけや出すタイミング・出す物等を一人一人あった方法を考えている。また、栄養バランスも偏らないようにメニューを考え、一人一人の方の状態により、柔らかくしたり、他の方とは別の物を出したり嗜好を考えたメニュー作りに努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入社時に感染症のマニュアルを配布、また、日々のうがい・手洗いの徹底、1ケア・1手洗いの徹底に努め、入居者の方にも壁に張り紙等にて「うがい・手洗い」の呼びかけと声かけを行っている。また、日々緑茶を飲んで頂くよう声かけを行っている。手すり等もヒビテン消毒を行っている。	○	これからも徹底し継続していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器洗い後の熱湯消毒を行い、ランチョンマット・包丁・まな板もハイターで除菌を行っている。食材についても上手に使い切るようメニューも工夫している。	○	こまめに台所をキレイにし食中毒の予防に努めていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム前を通り過ぎる近所の方、小学生などに挨拶を行い、交流を図っている。また、夏などは畑の野菜・草花の話で近所の方と盛り上がりたりもする。入居者の方もリビング目の前に畑があり、すぐに出れるようにしているので、気軽に畑を楽しむ事が出来る。玄関周りもきれいにし入りやすい空間を心がけている。	○	今後、地域の方が気軽にもっと足の運べるような工夫を考えていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	西日の強い時にはロールカーテンを閉め、曇りや雨の時には照明の調整を行っている。また、季節の草花を所々に飾り、季節感を演出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを多く設置し、セミプライベート空間を多く作り、思い思いに過ごせるよう工夫している。陽のあたる場所がやはり人気が高い。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたものを持って来て頂き、今までの暮らしの継続性を確保するように努めている。また、入居後も本人・ご家族の方の希望を取り入れ、部屋の模様替えも時折行い、居心地の良い空間を考えている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>日中・夜間共に温度・湿度を確認し、随時室温調整を行っている。また、居室に関してもまめに伺い、室温の調整を行っている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりを随所に設置し、ちょこちょこ休めるベンチを設置し安全に歩けるように配慮している。また、一人一人にあった履物の工夫も行っている。また、以前は掃除機を使い掃除を行っていたが、コンセントが危険だったため、現在は使用せず、ほうき・モップにて掃除を行っている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人一人にあった言葉かけ・口調・内容を考え、支援している。また、言葉だけでなく、小さいホワイトボードでの文字によるコミュニケーションやジェスチャーを使った視覚からのコミュニケーションなども活用している。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>季節にあった催しもの(焼き芋やBBQや流し素麺)など行ったり、畑へいつでも行けるように外履きを出しておき気軽に外へ行ける空間を考えている。また、日々の生活においても中だけの行動ではなく、日向ぼっこや洗濯干しなど活動の範囲を広げた支援を考えている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他 ()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他 ()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他 ()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他 ()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の方を常に中心とした生活スペース作りを心がけ、毎日が日曜ではない入居者の方が一人一人役割のある、入居者の方・スタッフ一人一人が頼り・頼られる関係、働いている実感を感じ、生きている実感を感じて頂けるよう、日々の生活の中に自信と喜びのある生活のため、入居者の方一人一人の生きる力を最大限に活かせる支援・五感を感じていただける支援・季節を感じて頂ける支援・喜怒哀楽のある生活を目指し、日々スタッフ一人一人考えている。また、認知症専門医の協力医との連携の下、根拠のある支援を目指している。グループホームの中だけでの生活ではなく、外出を多く取り入れ、日々の買い物・日帰り温泉・小旅行などを積極的に計画していき、日本の四季を五感で感じて頂ける支援にスタッフは日々精進している。

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
項目番号61 ○日常的な外出支援
項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
項目番号63 ○電話や手紙の支援
項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホーム あいの里

(ユニット名) あいの里 弐

記入者(管理者)
氏名 吉津 大介

評価完了日 平成21年 2月 22日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	あいの里の基本理念である「お客さまに対して誠心誠意のケアにつとめお客さまの満足と信頼を得る」に基づき、日々の生活の支援・サービスに努めている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念を事務所や玄関に掲げ、日々基本理念に基づきケアに努めている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	敬老会等には地域の方々に周知して参加頂いており、開催するにつれ地域の方々の参加人数も増えている。また、ご家族の方々にも月1回写真やお手紙をお送りし、日々の生活を伝えている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の方、近隣の方々とは顔を合わせるたびに笑顔にて挨拶を行っている。また、最近では小学生が家の帰りにトイレを借りに立ち寄ったりなどもしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会等に参加し、交流を深めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>地域にて認知症についての知識等を深めて頂ける様な介護講座や介護相談を受けれるような場所も今後設けていき、気軽に立ち寄れる空間を作りたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>今後、スタッフばかりではなく、ご家族にも権利擁護の制度を周知して頂ける様な機会を設けたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約書・重要事項説明にはご家族の方が納得・理解して頂ける様に説明を行っている。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情・意見等があった際にはスタッフはもちろん運営者に至るまで解決策を会議などでみんなで考えていき解決する様努め、運営推進会議でも取り上げ意見を頂いている。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	ご家族の方々にはこまめに連絡のやり取りを行い、近況報告を行っている。また、なかなか来られない方に対しても手紙や電話、また、入居者の方の写真をこまめに送り生活ぶりを理解して頂いている。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	行事等において、家族会を行い意見等を出して頂いている。また、ご家族要望書を作成し面会時、苦情や要望などがあった際には記録を行い解決に努めている。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	会議は原則全員参加としており、その際には意見を出し合い、運営に反映するように努めている。	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	受診・行事が前もって分かっている事柄に関しては、スタッフの意見も取りつつ勤務の調整を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	大人数の異動は行わず、特別な事情がない限り、年1から2人程度にし入居者の方とのなじみの関係を大切にしている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時には能力にあわせ、先輩スタッフが付き添い、仕事を行い職場内研修を実施している。また、法人外研修に関しても積極的に参加を促している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・スタッフが持っているネットワークを活かし意見交換などを通して、質の向上に努めている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	会議を始め、機会ある事にスタッフとの話し合いに努め、夏季・冬季に3日ずつリフレッシュ休暇を設けている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	様々な研修会に参加する事で一人一人が向上心を持って働ける様に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)	/			
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)		/		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)			/	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)				/
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○	時間の許す限り、会話の機会を設け、昔からの常識や言い伝え等も教えて頂きたい。これからも楽しい時間を共に過ごしていきたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の会話や生活を面会時に説明したり、電話や手紙にて相談し変化や気付き・個性を知り支える努力をしている。また、誕生会や様々なイベント事に一緒に参加して頂く事でコミュニケーションを図っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族とあまり話しをされない入居者の方に対してはスタッフが間に入り、最近あった事を伝え、安心して頂けるように心がけている。また、本人の思いをご家族へ伝える事で面会が増えたケースもある。	○	ご家族から信頼が得られるように何か変わった事があればすぐに報告し、また悩みや困っている事を相談して頂けるスタッフを目標とし、同じ時を刻み共有していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで生活してきた場所へ訪れ、人・場所を知る事で支援へとつなげている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の生き立ちで共有できる内容の話題の提供を行い、会話を楽しんだりひとつの作業を数人にお願ひする等を行い、お互いの関係を深める努力を行っている。また、その際自分たちはその場の雰囲気作りを大切にしている。	○	会話が成り立っていない時が多々あるので、その際には間へと入り支援していきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後、ご家族の方より退居後の様子のお手紙を頂いたり、こちらから年賀状等を送り関係をつないでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の会話や行動を記録し意向を把握していき、今までの記録も誰が見ても分かるようにファイリングされており、チームで情報を共有する事により、より良い介護計画作成に努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やこれまでの担当ケアマネジャー等に話を聞くようにし把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の声を大切に、体調等を細かく記録していき、月一度会議を行い状況の変化について話し合いを行っている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の声や主治医からの指示、職員の気付き・意見を元に担当スタッフと計画作成担当で、出来なくなった事・出来るようになった事・こういった方向性に進みたいなど話し合い作成しご家族に説明している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行い、即見直ししなくてはいけない場合には見直しを作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の生活記録シートに変化や発見など記入していき、記入した記録はリーダーが再度確認し、気になるような点があれば分かるように蛍光ペンにてチェックし申し送りを確実にいきチームで共有し、計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方や保育園児・オーケストラの方々などを呼び交流を図っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居受入れ時、地域包括支援センターと協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45			
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化・終末期について、まずホームとしての方針を考え、スタッフ全体が共有していき、その旨をご家族の方や主治医との話し合いも密に行っていき、具体的な方針を確立していきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>現在、協力医へ話し、今後の重度化・終末期にむけて対応出来る様に訪問看護ステーションとの契約を進めるため相談している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅にて愛用されていた品々を持って来て頂き、ダメージを防ぐ事に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その方にあった言葉かけや対応を心がけている。個人情報についてもきちんと取り扱っている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人のペースで暮らしていける様な関わり合いを心がけ、相談をされた時や協力の希望がある時など時間を作り対応し、出来る限り納得できる方法を考え、本人の思いを探している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切に1日1日充実した生活を送って頂けるように支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望むお店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	本人らしさを忘れない様、本人の望むおしゃれを取り入れている。また、一緒に化粧を楽しむ時間を作ったり、定期的に散髪して頂く事や身だしなみを整えて頂いたり、好きな色・好みを活用選択して頂いている。希望の店があるか本人へ確かめている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	○	<p>女性の入居者の方は役割を多く見つける事が出来るが、男性の入居者の方に対してはあまり見つける事が出来ていないので、これから多くの事を本人の声・行動・生活歴を手がかりに探していきたい。</p>


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>本人が納得するまで付き添ったりはしているが、やむを得ず行ってしまう時があるので、こういった時にはどう対応していくかをチームで話し合っ ていき、鍵をかけないケアを目標に取り組んでい きたい。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>定期的に避難訓練を行い、地域の避難場所を理解している。消防署職員の指導の下、避難訓練も定期的に実施している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人一人の体調の変化や症状によって起こり得る転倒や骨折等の説明を行い理解して頂いている、また、協力して頂いている。	○	リスクについての防止策の工夫の話し合い等をもっと多く持っていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	早期に変化に気付けるように毎日の健康チェック・体調管理を行い、食事・水分の摂取、排泄の有無や量を把握し、情報交換や申し送りを行っている。また、連絡帳を活用している。	○	持病や病気の内容を理解し、二次感染の防止や対処法を勉強していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診付添い時、処方されている薬で分からない点がある時には医師に伺い尋ねている。薬の変更時には処方箋を確認しチェックしている。また、服薬後には様子を確認し他スタッフと連絡・共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度な運動の声かけやお風呂の時に腹部のマッサージ・食事の工夫を行っている。また、水分量・排便の確認を行い記録し、不足している方には水分を摂ってもらうようにしている。便秘の続くような時には一人一人に応じて下剤を使用し対応している。	○	便秘薬の服薬と対応を慎重に行っていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後のうがいやハミガキの声かけをし、義歯にはポリドントにて洗浄を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや持病に合わせた食事量やカロリーを考え、調理やバランスを考えている。摂取時、ミキサーや刻みなどの工夫も行っており、水分についても一人一人好みも違うので、種類を増やし対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マスクの使用・うがい・手洗い、アルコール消毒・インフルエンザ予防接種、定期健康診断を行い、早めの治療を心がけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は出来る限り早く使用するよう心がけている。用具使用後の消毒、鮮度の良いものの購入を心がけている。毎回使用するランチオンマットも毎回洗い清潔な物を使用している。	○	調理で残った物は調理日を記入し、ビンや缶詰、牛乳等には開封日を記入し食の安全を守りたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の間口が広く・明るく、体の不自由な方も出入りが出来るよう工夫されており、施設というよりも一軒家の様に思ってもらえるよう、花などを飾り工夫している。また、近隣の方に対して挨拶を徹底している。また、時折小学生がトイレを借りに来たりもしており、気軽に入れる空間の工夫を行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の感じる飾り物の工夫を行っている。また、天候に応じた照明の工夫、居室及びリビングの清潔を心がけ掃除を行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に指定席があり、廊下に長イスも置き、また、和室などと色々な場所で会話が楽しめるよう工夫している。	○	個々の趣味や活動で出来る空間作りを行なっていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人・ご家族の希望を取り入れながらも、事故や 危険防止も考慮した配置を行い、安全且つ居心地 の良い空間作りを心がけている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている</p>	<p>24時間換気扇を利用と外気を取り入れたり、空調 管理に努めている。掃除のこまめに行い、清潔に 心がけている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している</p>	<p>手すりの設置や個々の能力に応じた歩行練習を 行ったり、また、和室の高さも工夫されており安 楽な座位が保てるようになっている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している</p>	<p>今、出来る力・能力を見極め、持続していけるよ うに役立つ喜び・出来る喜びを引き出し、自立の 心が無くならないような支援を心がけている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭の空いているスペースを利用し、畑を作り野菜 の成長の喜びを感じ、収穫・調理・食する時の感 動を味わい、意味のある会話をする事が出来た。 生け花のある事で心穏やかになる事を実感でき た。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の方を常に中心とした生活スペース作りを心がけ、毎日が日曜ではない入居者の方が一人一人役割のある、入居者の方・スタッフ一人一人が頼り・頼られる関係、働いている実感を感じ、生きている実感を感じて頂けるよう、日々の生活の中に自信と喜びのある生活のため、入居者の方一人一人の生きる力を最大限に活かせる支援・五感を感じていただける支援・季節を感じて頂ける支援・喜怒哀楽のある生活を目指し、日々スタッフ一人一人考えている。また、認知症専門医の協力医との連携の下、根拠のある支援を目指している。グループホームの中だけでの生活ではなく、外出を多く取り入れ、日々の買い物・日帰り温泉・小旅行などを積極的に計画していき、日本の四季を五感で感じて頂ける支援にスタッフは日々精進している。